

第12回 「長野県障がい者の地域交通網を考える会」

日時：平成29年11月13日（月） 13：30～

場所：長野県社会福祉総合センター2階 ポプラの会事務局

出席者： （敬称略）

長野県障がい者の地域交通網を考える会 代表 NPO 法人ポプラの会 会長 山本悦夫

長野県ピアサポートネットワーク 代表 大堀尚美

NPO 法人ポプラの会 副会長 穂苅由香里

せいしれん 会長 中村美恵子

長野県障害者運動推進協議会 副代表 原金二

社会福祉法人 長野県身体障害者福祉協会 事務局 小林 彰一

長野県手をつなぐ育成会 事務局長 塚田なおみ

長野県精神保健福祉士協会 理事 櫻井 健太郎

社会福祉法人 長野県視覚障害者福祉協会 中山 吉泰

NPO 法人 長野県相談支援専門員協会 米山 勝也

長野市障害者相談支援センター皆神ハウス相談員 西川洋介

NPO 法人ポプラの会顧問 大池ひろ子

NPO 法人ポプラの会 早川理恵

欠席者：

長野県精神保健福祉会連合会 理事長 榛葉智昭

社会福祉法人 長野県聴覚障害者福祉協会

一般社団法人 長野県作業療法士会

きょうされん長野支部

公益社団法人 長野県社会福祉士会 障がい者部会

長野県精神保健福祉センター

代表挨拶

山本さん：前回の振り返りとして、生活実態をお伝えしていくこととJRにも何かメリットがあることを示していくことが大切だと出されました。福祉医療に関しても、長野県はあまり進んでおらず、障がい者は置き去りにされていることを話し合いました。今日は、アンケートを基にどういったものを作成していくかを話し合いたいと思いますので、よろしくお願いします。

挨拶

中村さん：せいしれんの役員にも当事者が数名います。やはり、当事者主体であらなければならないと思います。

原さん：福祉医療制度の問題について今度の改正でも、現物給付等を是非加えてほしいと思いますので、お願いします。

小林さん：私も所属している信州あいサポートフォーラムもよろしく申し上げます。

塚田さん：交通網以外のことで話し合えればと思います。障がい福祉向上の仕組みとして、広い長野県を圏域ごとで活動しているものかと思います。

中山さん：広い意味での障がい者の問題として参加させていただきましたので、よろしく申し上げます。

西川さん：今日はアンケートの内容について精査していくとのことですが、一般の方が、障害者手帳を持っている方や精神障害者保健福祉手帳を持っていない方の割引にならない実態をどれだけ知っているのかと思います。

大池さん：来年度の国の方向を福祉新聞で見ると、中小企業の収支差額を比べたときに社会福祉法人のほうがいいとのことでしたが、賃金が3~5万円だけでも福祉の世界では厳しいということをもっと理解していただきたいと思う今日この頃です。

穂苅さん：今日これだけたくさんの方々が集まってくださり、そのご協力で少しでも前へ進んでいければと思いますので、よろしく申し上げます。

山本さん：しなの鉄道の時にも署名を集めたり、請願をしたりしました。またそういった以前の活動も含めて話し合えればと思います。

大堀さん：精神の障がいだけでなく、障がいによって差別されることがないようにという点では共通だと思しますので、よろしく申し上げます。

アンケートについて

大堀さん：アンケートにある実態調査について、どういった人を対象にしていくかなど検討していきたいと思うのですが、アンケート用紙をご覧ください。前回では、こういったアンケートを基に、上田電鉄など他にも割引になったところもあります。

穂苅さん：(アンケート内容を読み上げる。)

大堀さん：これについて何かありましたら、意見を申し上げます。

原さん：一語一句直していくよりも、全体で話し合っていければと思います。細かい語句について直していったり、項目によってまとめたりしたらどうかと思います。できれば、生活実態について把握していきたいと思うのですが…。例えば、年間の収入などについて問わなくていいのかです。あまり個人の生活について立ち入ってはいけませんが、本人にとっては十分なのか、家族に援助してもらわなければいけないのか、その部分の統計が必要だと思えます。

大堀さん：私は、このアンケートだけでは生活実態は見えてこないなと思います。確かに、もっと普段どういう

ことをしているのが浮き彫りになるようなことも必要かもしれません。

西川さん：しなの鉄道ときは、どこまで聞く内容だったのですか？

大堀さん：しなの鉄道では、このアンケートのような内容でした。

中村さん：前回と比べ、2回目なので、そのあたりを説明できればと思います。JRの割引だけでなく、生活実態も解明できればと思います。自家用車の維持費については、通院だけでなく、買い物などの日常の使用にいくらガソリン代がかかるかという問いも必要ではないでしょうか。

原さん：例えば、「増えた」という語句の部分は「だいぶ増えた」「少し増えた」という部分を併せて増えたというのが日本語では「増えた」という意味になります。また、一般の人々にもわかりやすく示せることも必要かと思えます。もうひとつ、アンケートに回答してくださった方々にフィードバックしていくことも必要です。できるだけ書きやすく、問いが少ないほうが答えやすいです。質問は増やす必要はないのではないのでしょうか。

小林さん：目的が割引についてなので、割引の必要性や「実質こういうふうであります」というようなことをJRのような全国組織に納得していただけるような内容であればと思います。もうちょっとコンパクトでいいのではないかと思います。

塚田さん：通所に関しては、通所していない人がどうするのかと思います。

櫻井さん：目的を達成することが大事かと思えます。

中山さん：他の障がいとどう違うのかという部分がはっきりしません。身体障がいでも、障がいの内容が違います。なぜ、精神だけそうなるのかというと、例えば、通院が継続するところが違うのかなと思います。漠然として、障害で固定してしまい、制度の利用がそれぞれによって納得できない部分があるのではないのでしょうか。JRという大きな鉄道が納得しないと、他の鉄道会社も納得しないのではないかと思います。単に障がいというだけで同じにしてしまっただけでは、兼ね合いがどうなるのかわかりません。「これ以上治らないよ」という障がいの等級を受けてではなく、実態がどうかです。昔は障がい者というと、学校でも排除されていたし、学校でも受け入れてもらえなかった。それが今では変わってきています。精神のことはよくわかりませんが、症状が安定するなどがないと、就職の問題も改善されてきていないですし、雇ってもらえません。厚生省の統計から見ても、差があるように感じます。

大堀さん：精神の場合は、等級が変わることもあります。収入や生活状況にもよりますが、私たちは精神障がい者が差別されているという部分が問題だと思っています。今言われましたように、私たちも、もっと伝えていかなければいけないですね。

中山さん：私はこの会議に出て、そういう差別があることを初めて知りました。JRはどうとらえているのでしょうか？

大池さん：精神障がい者は、障がいだと認められてまだ年数があまり経っていません。JRは当時国鉄でしたが、

JR は精神の手帳に写真を載せるということがなかったのを理由に厳しい姿勢でした。そのような状況で国鉄は JR になってしまい、民間会社へと変わってしまったために、民間会社競争の部分で、なかなかそこを突破できないのです。そこを各団体が活動してきて突破してきたのです。あちらこちらでは運動しているのですが、肝心の JR を突破できないと、他もなかなか変わらないですし、成果も出ません。そういった経過があるのです。

大堀さん：長野電鉄も日本で一番高い電鉄と言われていました。署名を集めて持っていきましたが、JR が動かなくては動いてくさいません。しなの鉄道は割引になりましたが、次のターゲットは JR だということです。

原さん：国の姿勢は変わってきています。国には「JR に割引になるように働きかけています」と言われますし、JR は「割引にした分まで、他の乗客に負担がかかる」という不平等な言い方をするのです。「それは民間の問題だ」として、国には逃げられています。

中山さん：こういうデータを持って訴えていかなければいけないと思いますよ。厚生労働省に行ったからといっていきなり変わるとは思えませんが、一段一段踏んでいく必要があります。

小林さん：JR の「一般の人に不平等になる」という考え方はおかしいと思います。

原さん：実態として、精神障がいの問題はたくさんあります。以前は知的障がいがそうでした。最近やっと知的障がいと身体障がいに追いついてきたのです。大きなきっかけは修学旅行です。修学旅行に行く際、身体障がいと違って、知的障がいには手帳がありませんでした。その頃は私も随分厚生労働省に訴えに行きました。

小林さん：今は行政よりも民間企業にお願いした方が効果的な時代だと思います。障がい者間差別はおかしいという論点で訴えた方が「企業の社会的責任」の観点からも要望を受け入れていただける可能性は高いと思います。

中山さん：是非実現していただければと思います。これからの人たちに差別だと思わせないように、先に生きてきた人間が動いていかなければいけないです。

小林さん：JR のホームページを見ると、大きな投資をされているようで、とてもこれによって経営悪化になるとは言えないような業績だと思います。また JR に受け入れていただければ、他の各社も同じ流れになると思います。インバウンド等で経営環境の良い今がチャンスだと思います。差別解消法が施行されたことですし、合理的配慮は民間事業者は努力義務ではありますが、「企業の社会的責任」に訴えて是非実現していただきたいと思っています。

穂苅さん：障全協さんの会合に参加させていただいたとき、これは障がい格差を広げるのではないかと思ったことがあります。JR を含めて、混乱している状況があるようです。精神に関しては、「福祉的施策としてやってくれ」「公的施策としてやってくれ」という部分があるらしく、精神の話になった途端、「公的なお金を使ってやってくれ」という動きがありました。なぜ精神だけそうになってしまうのかと思います。

米山さん：アンケートというと、仮説があってこそその検証だと思います。「JR さん、割引があるとうなりますよ」というデータが出たならば、全国的な動きにつながるかと思います。精神の障がいがある方は大勢いらっしゃ

やるというデータがあり、「その方々が一斉に割引を使ったらどうなるか」「割引があつたら私たちはどう鉄道を使いたいか」を伝えられるようなアンケートになればいいのではと思います。

大池さん：「割引かれるともっと乗るよ」という部分を整理していけたらいいのではないのでしょうか？

西川さん：アンケートの中に通所はありますが、働いている人や訪問の人があればいいのかなと思います。生活実態について、お金と比例する部分があるのかどうか知ることができればいいのではないのでしょうか。

大堀さん：アンケートについて具体的な案がある方いらっしゃいますか？

原さん：長野県だけでなく、当然全国組織にも出向かなければいけないと思います。我々の活動をマスコミにも取り上げていただきたいです。ショックなのは、差別解消法を知っているのが、当事者でも2割だということです。これは完全に我々の宣伝不足です。せっかくやったものは大いに活用しなければなりません。

小林さん：手順から行けば、3月31日が決算で、会社の都合を考えれば、早めに本社のほうに出向いたほうが良いのと、取りまとめも早いほうが良いと思います。マスコミにも周知していただきたいです。企業の責任に訴えることと障害者の観光等の需要により業績効果に訴えることの二本立てで交渉すればより効果は大きいと思います。

大堀さん：できれば年内のほうがいいのですが、費用の面がありますので…。できれば署名をしたいと思うのですが…。「精神障がい者だけ割引がないのですか？」と言う方もいて、署名してくださる方もいます。

米山さん：紙ベースだけでなく、ウェブ上のアンケートの二本立てにしてはいかがですか？

大堀さん：またそれに関しては、皆さんに協賛金をお願いするかもしれませんが、よろしくをお願いします。

大堀さん：次に、100km以上でないと言賃割引にならないことについて、中村さんをお願いします。

中村さん：たまたまクレームがあつたこともあるのですが、これに関してはもっと情報や正しい理解を広めていかなければと思います。

福祉医療について

原さん：我々は、大きな市や町村にはお願いをしているところであります。前回も言いましたが、ダントツに多かった長野県への要望は医療費に関することでした。それにも拘わらず、障がい者の施策は長野県には出ていません。市のほうも、精一杯だとのことで、苦戦しております。特に、精神に関しては遅れておりますので、頑張らなくてはというところです。

大堀さん：権利条約について、何か意見がおありの方は寄せていただければと思います。今、何か把握していることがありましたら、お願いします。

意見がないようですので、また次回ということで、一人一言ずつお願いします。

今日の感想

穂苅さん：アンケートの問題についてですが、仲間たちのために私たちができることは何かということですから、このアンケートをしっかりと作り上げていきたいと思います。

大池さん：他障がいについても教えていただき、心強く思います。連携しながら進めていくと大きな力になるんだなと思います。

西川さん：私たち福祉の関係者だけでなく、一般の方々にも知ってもらう必要があるのではないかと思います。うまく取材していただける活動にしていきたいです。

米山さん：またどういった結果になるかを話し合っていければと思います。

中山さん：いろいろ聞かせていただき、ありがとうございました。

櫻井さん：また協会に持って帰って勉強させていただきたいと思います。まずは協会で話し合ってみます。

塚田さん：育成会としても全国組織なので、これ以上現場を苦しめることがないように力を合わせていきたいです。

小林さん：是非ともご協力をお願いします。

原さん：今、課題が多く、苦しい情勢です。どこから手を付けていいのかわからない状態です。でも、今日は理解を深められ、よかったです。

中村さん：前日も JR にメリットがあるような企画をと申しましたが、ポイント制などを実現できればいいのかなと思いますし、こちらから提案していくことも大事かなと思いました。

大堀さん：JR など長距離になると同行してくれる人がいいなと思います。やはり、一般の人と同等に扱われていないと感じます。そこの思いをどうしていったらいいかなと感じ、頑張ろうと思いました。

山本さん：障がい者にとっては、賃金が本当に少ないですから、割引は社会に出ていくためのメリットとなると思います。災害があると、障がい者が先に死んでいくというデータも出ています。根本的に皆さんに知っていただきたいと思います。

今後の方針とお願い。現在、精神障害保健福祉手帳所持者の JR 運賃割引に向けての実態調査のアンケートを作成中です。実態調査の結果をもって JR、各公共交通機関の交渉に当たります。皆さまのご協力をお願い致します。